



コールセンターからの、小さなよみもの

2023年
3月

2023年3月31日

Vol
170

金利上昇が不安なときに 改めて債券の本質から考えてみる

欧米各国での相次ぐ政策金利の引き上げや、昨年末の日本銀行の金融政策の変更を受けて、債券への投資に不安を抱く方が増えたように感じます。

特に2022年は、世界的に金利が上昇し、債券価格がこれまでになく下落をしたことも影響していると思います。

しかし、こうしたときに、「金利上昇が心配だから債券への投資は控えるべきか？」と考える方がいらっしゃった場合は、「債券の本質から考える」ことをお勧めします。



米国

政策金利誘導目標

2022年3月以降 **4.75%** 引き上げ*



ユーロ圏

主要政策金利

2022年7月以降 **3.5%** 引き上げ*



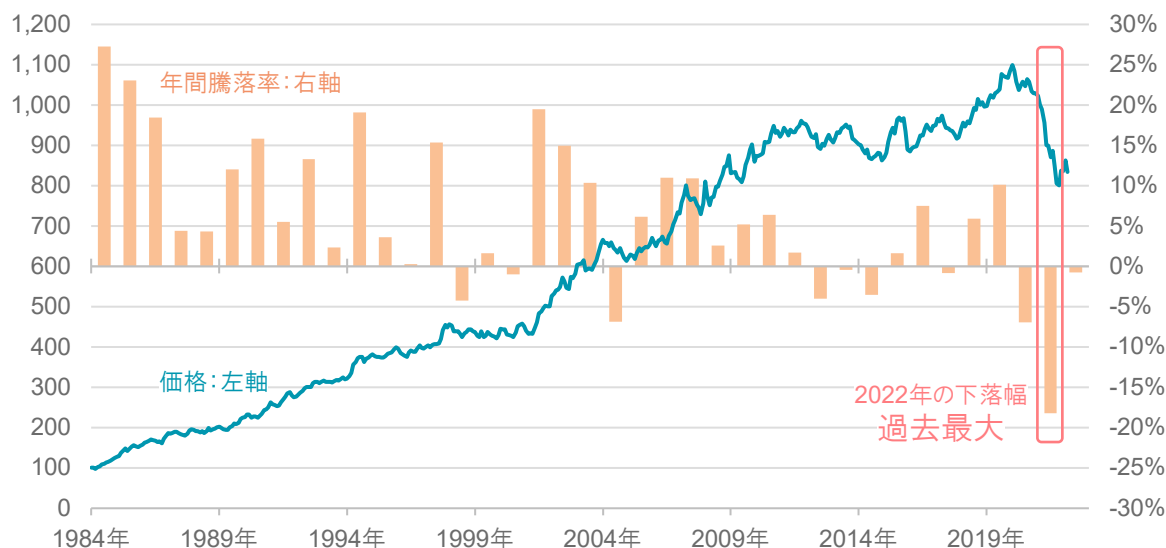
日本

長期金利の変動許容幅

2022年12月 **0.50%** に引き上げ

* 米国の政策金利(フェデラルファンド(FF)金利)誘導目標は2022年3月のゼロ金利解除前(0.00~0.25%)対比で2023年3月23日時点では4.75~5.00%。ユーロ圏の主要政策金利は2022年7月のゼロ金利解除前(0%)対比で2023年3月16日時点では3.5%。

■ 先進国債券の価格と年間騰落率の推移
(1984年12月末~2023年2月末、米ドルベース)



● 先進国債券: FTSE世界国債インデックス ● 信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成 ● 上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



こよみ

コールセンターからの、小さなよみもの



2023年
3月

債券の本質は“利息収入”と“元本の安全性”

債券への投資では、「利息収入を得ながら、満期に償還金を受け取る」という本質を忘れてはいけません。金利上昇を心配される方の場合、「債券価格の下落（値下がり損）」への意識が強いと考えられます。しかし、この本質を押さえておけば、債券の発行体が債務不履行（デフォルト）しない限り、「金利が上昇しても、債券価格は償還価格に向けて回復するし、新たに投資するときには利息収入も増えるかもしれない」と長期スタンスで構えることもできます。

■ 債券投資に期待することの例



利息（クーポン）収入

あらかじめ決まった利息（クーポン）が定期的に受け取れる。



債券価格の上昇（値上がり益）

金利低下時に債券価格が上昇
金利上昇時には逆の動きに。



元本の安全性

債務不履行（デフォルト）しない限り、
元本または額面金額を受け取れる。



他資産と異なる値動き

株式やREITより値動きが小さく異なる
傾向があり、分散効果が期待できる。

※上記は債券の一般的な特徴であり、市場環境などによっては上記のようにならない場合があります。

ポートフォリオとして捉えて、債券の特徴を生かす

株式やREITに比べて値動きが小さいだけでなく、値動きの方向も異なる傾向があることを踏まえると、債券を他の資産と組み合わせるという選択も検討しておきたいポイントです。なぜなら、債券だけを保有する場合に比べて、組み合わせることで、全体のリスク・リターンバランスを改善する効果が期待できるからです。

株式やREITといった高い収益性が魅力の資産とは役割が異なる債券は、ポートフォリオの安定性を高めるうえで重要な役割を果たします。株式のような取引所がないため個人では難しいとされる債券投資ですが、投資信託を活用して資産運用に生かしてみてはいかがでしょうか。



nikko am

コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00～17:00